



【 子供・仲間を助けようとするありがたい行為 】

- 昨日の朝、私が挨拶運動をしていると、用事で学校に来られた保護者の方が私の方に来て、「校長先生、大門川沿いの道の途中で、何人かの子供たちが立ち止まっています。何かあったのかもかもしれません。」と言われました。
- 私は、大門川の方に向かって行くと、2人の子供と、井波小学校の校務助手が歩いてきました。低学年の子供が登校中につまずいて転び、膝と手の平をけがをしたとのことでした。それを見た校務助手がかけ寄り、一緒に登校してきたとのことでした。
- また、途中の道におられた大人の方が、**転んだ子供に傷版を渡してもらった**とも聞きました。**転んだ子供の膝・手に傷版が貼って**ありました。血がにじみ出ていた子供の様子を見られた大人の方が、心配されて渡されたのでしょうか。ありがたいことです。
- そして、転んだ子供に付き添っていた友達。玄関まで付き添い、玄関に入ったら、養護教諭を呼びに行きました。**困っている友達をそのままにしておけないという親切心**が、このような行為に結び付いているのだと思います。ありがたいです。
- 転んだ子供は、痛かったことでしょう。多くの人に助けてもらいながら学校の校舎に入ることができて、きっと**嬉しく、感謝**していると思います。多くの方々、ありがとうございました。
- その後、文化センター側から登校してきた低学年の子供が私に話してくれました。「A君、図書館の方から、いつもと違う道を通って学校に来るようで、どこか向こうの方にいるよ。」と。私は状況をよく把握できず、とりあえず車で図書館やその周辺の様子を見にいきました。特に変わった様子もなく、学校に戻ると、A君が登校していたので、安心しました。
- ここで嬉しいのは、低学年の子供が**友達を心配して、私に話をしてくれた**ことです。「**仲間を心配する**」「**仲間を助けたい**」という心境が、校長に一生懸命に知らせるという行為につながったのだと思います。ありがたいです。

